

令和3年度の研究(または活動)内容

生活環境と一体となった身近な地域文化財や伝統文化には、「持続可能な地域づくり」のヒントが秘められている。本プロジェクト研究所は建築史、防災計画、環境保全、映像学、歴史資料学といった異分野融合と地域連携を重視し、「文化財の価値を守り、未来へ伝え、持続可能な地域づくりへ活かす」という複合新領域の形成を目指すものである。

本年度は次のような地域実践をベースとしたプロジェクトを実施した。いずれも、自治体からの受託研究など社会的ニーズの高い課題に、異分野の研究者が協働して実施した点が大きな特徴といえる。また受託研究に基づくからこそ、そうした異分野協働が地域課題の解決という実践へ結実するかたちとなった。

【歴史的町並みの文化財的価値を守る防災計画】

青森県弘前市の城下町を代表する景観をとどめる「伝統的建造物群保存地区」の防災計画策定のための調査研究を行った。弘前市受託研究として取り組み、建築学科・中村准教授が他大学を含めた全体総括および「雪害対策」を分担し、生活デザイン学科・畠山准教授が「水害対策」を分担して実施した。なお、本学以外の研究機関として、「防火対策」を工学院大学、「耐震対策」を横浜国立大学、「防災意識と啓発手法」を弘前大学が分担し、本学が全体調整を進めながら実施したプロジェクトである。たとえば「雪害対策」では、空き家・空地の除排雪を行いうる共助の仕組みづくりの検証といったソフト対策をベースに、伝統的な雪対策である「雪囲い」の文化的側面にも着目し、本学大学生も参加した伝統的雪囲いワークショップを試行しながら、居住者以外の観光客や企業ボランティアが「雪囲い」「雪かき」を文化財保護支援活動として実施する形態を検証した。受託研究は次年度も継続し、防災計画の提言を目指す。



「雪吊り」を大学生がサポートする試行



「雪囲い」の体験学習会の実施

【地域の価値を伝える映像づくり】

近代洋風建築や町家が連なり「みやぎの明治村」と称される登米市登米町を研究対象地として、歴史的町並みの価値を伝える映像制作を行った。経営コミュニケーション学科・猿渡教授が担当し、地域文化財の解説等に建築学科・中村准教授が協力した。

地域博物館である登米懐古館や登米市立登米小学校の協力を得て、本年度は「明治時代の木造校舎を小学生が清掃する活動」「小学生の北上川川下り体験学習」「地域で伝統芸能を継承する活動」とい

う三本の映像を制作した。このプロジェクトは、登米市観光シティプロモーションサイトで情報発信しており、「トメの子ジルシ」という特設サイトをデザイン・構築し、映像での情報発信の体制づくりも行った。この映像制作の特色は、地域文化財そのものの解説を意図するのではなく、むしろ、地域文化を守り、地域づくりを担う「ひとの活動」にフォーカスした点である。このアプローチだからこそ、映像制作が地域文化を活かす「地域づくり」へリンクするといえよう。



伝統芸能を継承する活動



小学生の北上川川下り体験

【文化財と環境保全が融合した SDGs環境学習プログラムの実践】

環境保全学の環境応用化学科・山田教授と、文化財保存の建築学科・中村准教授が共同企画することで、文化財と環境保全をつなぐSDGs学習プログラムを実施した。具体的には、北上川ヨシ原から収穫され、かつ水環境の保全を担う「ヨシ」に着目し、それが文化財たる茅葺き民家の屋根に葺かれる資源循環の姿を、こどもたちにもわかりやすく伝える教材・ワークショップ開発を行った。東北歴史博物館が保有する文化財建造物「今野家住宅」という茅葺き民家を会場として、北上川で収穫した「ヨシ」「オギ」でほうきをつくるワークショップを開催した。本学学生のサポートおよび山田教授の環境学のミニ・レクチャーもあわせて、30組の小学生親子参加を得て、学習プログラムの実践を行うことができた。このワークショップ材料の確保および研究の一環として、北上川ヨシ原での茅刈りの実習も行い、建築学科・環境応用化学科の学生の参加もあり、フィールド実践的な教育的効果もあげることができた。



北上川ヨシ刈り実習



東北歴史博物館での SDGsワークショップ (ほうきづくり)

【歴史資料学と建築史学が融合した文化財の価値評価】

岩手県奥州市教育委員会による歴史的建造物の文化財調査に、歴史資料学が専門の総合教育センター・河内講師と建築史学が専門の中村准教授が共同で現地調査を遂行し、総合的な文化財の記録化・価値評価手法の新たなあり方を検証した。奥州市水沢地区に所在する国史跡・高野長英旧宅および旧安倍家住宅、さらに米里地区の私設文学資料館・人首文庫の3件について、建造物の実測図制作や写真撮影といった記録化に加えて、ゆかりの歴史資料も調査し、有形文化財を地域の歴史文化の文脈からその価値を位置づけることを目指した。米里地区の人首文庫の調査結果については、奥州市教育委員会・国立歴史民俗博物館の共催による「奥州市地域史講座」で研究報告し、地域の方々へのアウトリーチ活動も行った。さらに、旧安倍家住宅については、本調査を受けて 2022 年 3 月に国登録有形文化財の答申に至った。



高野長英旧宅に所在する近代和風建築



人首文庫の実測調査風景